

伊丹福音ルーテル教会 新年礼拝のしおり

2023年1月1日

前奏

招きのことば：詩編 51 編 17 節

牧師： 主よ、わたしのくちびるを開いてください

会衆： そうすればわたしの口は、あなたのほまれを告げるでしょう

一同： はじめにそうであったように、今も、そしてとこしえまでも
父と、御子と、聖霊の神に、栄光がありますように **アーメン**

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。あなたは私たちの昨年の歩みを導いてくださいました。また、新しい年のはじめに、今朝も共に礼拝にあずかって、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただきます。

救い主であり、主であるイエス様が、この新しい年もみ言葉によって私たちの生活のただ中にお住いくださって、私たちの新しい年の歩みを導いてください。礼拝で神様の愛と恵みに満たされ、家庭、社会で豊かに実を結ぶ年となりますようにと祈ります。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

聖書朗読：ヘブライ人への手紙 13章 5-17節

金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言われました。だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。「主はわたしの助け手。わたしは恐れぬ。人はわたしに何ができるだろう。」あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。いろいろ異なった教えに迷わされてはなりません。食べ物ではなく、恵みによって心が強められるのはよいことです。食物の規定に従って生活した者は、益を受けませんでした。わたしたちには一つの祭壇があります。幕屋に仕えている人たちは、それから食べ物を取って食べる権利がありません。なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。わたしたちはこの地上に永続する都を持っておらず、来るべき都を探し求めているのです。だから、イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう。善い行いと施しとを忘れないでください。このようないけにえこそ、神はお喜びになるのです。指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、神に申し述べる者として、あなたがたの魂のために心を配っています。彼らを嘆かせず、喜んでそうするようにさせなさい。そうでないと、あなたがたに益となりません。

福音書朗読：マタイによる福音書 2章 13-23節

占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデ

が、この子を探し出して殺そうとしている。」ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子供たちのことで泣き、慰めてもらおうともしない、子供たちがもういないから。」

ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、言った。「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」そこで、ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。しかし、アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行き住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。

讃美歌 414 番

1. あらたまの 年たちかえり、うらうらと 初日(はつひ)におえり
家ごとに松竹たてて 新年(にいどし)を 祝うめでたさ
2. **人みなは 親しみ むつび、おさまれる 御代をことほぐ**
恵みもて 年のかむりと なしたまえ 天(あま)つ御神よ
3. ひととせの 計画(たくみ)は すべて 新年(にいどし)に ありとし言えば
みこころを 我に示して、この年も 勝ちを得させよ
4. **うつし世も 天(あま)つみくにの 心地して きよきこの日の**
我がたまを いよよきよめて ささげばや きよきみまえに アーメン

説教：「恵みによって心が強められる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

新しい年、神様の恵みの年を迎えました。幸いですね。旧年中はたいへんお世話になりました。ともに神様の導きのもとで喜びや苦しみをわかちあいつつ歩むことができました。心から感謝をいたします。また本年もあらためて、主にあって、どうぞよろしく願いいたします。

2023年の私たちの教会の歩みのために、祈りつつ、次のことをお分かちしたいと思います。ヘブライ人への手紙 13章に基づいて、年題を「恵みによって心が強められる」としましょう。目

標としては、様々な教えに迷わされないで、恵みによって心が強められることを覚えることとしましょう。具体的には、①13章6節から、人をおそれないで、主に信頼しましょう、②13章14-15節から、賛美しつつ来るべき都への旅を続けましょう、そして③13章17節から指導者のために祈りましょう、というようにお勧めいたします。

将来に希望をもてない時代です。コロナ・ウィルスの世界的流行はまだ収束していません。さらに戦争がおおっぴらに行われています。道を誤れば、日本も様々な国際的紛争に巻き込まれる恐れがあります。近い将来を見ても希望を見出すことは難しいのが現状です。生活は更に苦しくなっています。信頼できるリーダーが出てきません。どうしたらいいのでしょうか。

2023年はヘブライ人への手紙13章から「恵みによって心が強められる」という表題をいただきました。希望を持ちにくいなかで、私たちの心にも、ため息や諦めが住み着いてしまいがちです。神様の恵みによって心が強められるのはよいことです、というみ言葉を覚えましょう。

文脈から見ると、ヘブライ人の置かれていた状況はかなり危機的なものでした。イエス様を唯一の救い主と信じるという信仰を理由に、牢屋にとらわれている人々が多くいました。クリスチャンたちは何か社会的に悪いことをしていたのでしょうか。いいえ。むしろ、困っている人々を親身になって助けていました。孤独な人々の友となり、食べるものがない人々に食べ物を施し、旅人たちをもてなしていました。イエス様を信じてすべての罪が赦されること、また、心に安心と希望が与えられて、新しいいのちにみなぎることを教えていました。イエス様を信じる人々は増えていきました。

時の権力者は自分の命令に従う人を優遇します。自分たちをあがめ礼拝する人を求めています。イエス様を信じている人々は、よい市民として、権力者に権威を与えているのは神様だと知っていますから、上に立つ人々が仕事をしやすいように、心から従います。共によりよい社会をつくることに励みます。しかし、その権力者は救いを与えてくれるのではありませんから、権力者をあがめたり、礼拝することはありません。それで、当時のローマ帝国の権力者たちは、クリスチャンたちがよい人々だと言うことを知りながら、自分たちを神のようにあがめてくれないクリスチャンたちに圧力をかけて、その心をくじいて、ローマ帝国に忠誠を誓わせようとカづくで捕らえたり、迫害をしたりしました。ヘブライ人たちは苦しめられていました。

そんなとき何を頼ればよいのでしょうか。自分を喜ばせる快樂に身を任せることでしょうか。緊張と不安の中で自分を見失わないようにと、人は自分の心が喜ぶことを探します。しかし心の安定を求めながら、実際には心むしばまれ、神様の裁きを受ける人が多いのです。ヘブライ人への手紙13章4節には、みだらな者、姦淫する者を神様は裁かれると記されています。

また、お金というわかりやすい信頼もあります。将来の不安はお金に頼ることで解消できると直感して、お金がないからみじめなのだ、お金さえあれば安心できるし、楽しく幸せな生活ができる、とお金の力に信頼する人々です。不安なとき、お金信仰に心が動きます。

私たちは、こんな状況だから快樂やお金に頼る以外は仕方がないではないか、と考えます。しかし、人生の真理をヘブライ人への手紙 13 章 5 節で教えられます。神様は「わたしは決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と約束してください。洗礼を受けたとき、私たちは父と御子と聖霊のお名前によって受けました。私たちを造り、私たちを支えてくださる神様は、責任をもって御子イエス様の生涯と十字架と復活によって私たちのすべての罪を赦して下さって神の子、神のものとしてくださいました。

不安なとき、心定まらないときに神様はいつも語られます。指導者モーセがいなくなってこれからイスラエルの民を導くことになった年若き指導者ヨシュアに対して、神様はヨシュア記 1 章 9 節で「わたしは強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行っても、あなたの神、主はともにいる。」この約束に励まされ、ヨシュアはイスラエルの民を約束の地カナンに連れていく使命を実現できました。

大切なのは、私たちの信頼をどこに置くか、ということです。表面的に、私は神様に信頼しています、と言うのは簡単なことです。心の中の本音には計算があって、いや、お金があるから大丈夫だ、いや、まだ余裕があるので快樂を求めて行っても大丈夫だ、という神様以外のものに信頼していることに気付く必要があります。テモテへの第一の手紙 6 章 17 節では、頼りにならない富に望みをおかず、世の人々と同じ快樂におぼれず、すべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神様に望みをおくことを大切にするように教えられています。ローマの信徒への手紙 8 章 32 節にあるようにご自分の御子イエス様さえも惜しまないで死に渡された神さまが御子と一緒にすべてのものをわたしたちに与えてくださらないはずがあるろうか、と記されています。ローマの信徒への手紙 8 章 32 節にあるようにご自分の御子イエス様さえも惜しまないで死に渡された神さまが御子と一緒にすべてのものをわたしたちに与えてくださらないはずがあるろうか、と記されています。

新しい年を始めるにあたって、私たちはこの一年、何を目指して歩むか、どうなりたいか、と思いつめず時をもちます。今ここで、私たちを見捨てず見放さずともにいてくださる神様の恵みに、イエス様によってすべての罪を赦して我が子としてして下さった神様の恵みに、心の底から信頼して強められる一年となるように、神様の助けによって願おうではありませんか。

神さまの恵みの約束に信頼し、安心して、この一年のご自分の生活を設計してください。賛美と善い行いで満たされる計画です。すべての罪を赦していただき、神の子とされました。罪びとの住む世の旅路を、救われた喜びを賛美して歩み切るのです。誘惑に負けて、自分の弱さ、自分の罪深さに何度も立ち戻らされます。それを承知であなたを洗礼によって御子イエス様によって赦し、天の都を故郷として持つ者にして下さった神様をほめたたえるのです。罪びとの間に住む私たちはたくさんの自己中心やわがままな人々に出会い、損をし、失望し、傷つけられます。その中でも彼らを赦してください、と祈りつつ、新しい心をいただいていることの喜びを賛美の実として絶えず神様にささげましょう。

昨年の歩みも、同じ主によって支えられ、たくさんの感謝すべきみわざを体験してまいりました。13章8節にあるように「イエス・キリストはきのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」善い行いとは、ヘブライ人への手紙13章1節から読むと、教会に集う互いのことを兄弟姉妹として、いつも大切にしようこと、よいときだけではなく苦しみの時にこそ大切に覚えて身近な支えとなることです。また、旅する方々をもてなすことです。信仰のために牢に捕らえられ苦しんでいる人々を思いやることです。私たちもはばかりに「主はわたしの助け手、わたしは恐れぬ。人はわたしに何ができようか。」と告白しましょう。神様に信頼して、同じ神様の子どもとされた兄弟姉妹のために、心を尽くして具体的な必要を覚えあうこと、仕えあうこと、それによって高めあうことです。

隣人は、家庭で人生を共に歩んでいる人々です。あなたの立場でできることは何でしょうか。どのようなことで互いに人生を豊かに幸いにすることができるでしょうか。また、私たちがこの世を最終的な住処にするのではなくて、ふるさとである天の御国にむかって歩んでいるのですから、家族にもどのようにして忍耐をもってイエス様のことをお伝えし続けることができるかを祈り求めましょう。使徒言行録16章31節には、「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」と約束されています。家族の救いの実現を信じていますか。神様に信頼して、実現したあとのことまで考えて、そのことに心を込めていきましょう。

隣人は世の中で、社会で、出会う人です。学校の先生や友達、先輩や後輩、会社や職場で出会う人、近くに住んでいる人すべてです。今与えられているご自分の立場で、どのように皆さんと一緒に幸せをつくっていくことができるか、心を砕いて何が正しいことかを考え、仲間とともに実行して、一緒に成長することです。イエス様は私たちと同じ人となって、罪びとのために、罪びとの救いのために私たちが担う重荷を負ってくださいました。イエス様は受け入れられませんでした。辱めを受け、十字架で命を奪われました。それでもご自分の愛と犠牲によって私たちひとりひとりが神様の御前で、すべての罪が赦されて新しいいのちに生きることができる、ということで苦難を受けられました。私たちも少々の苦しみや悩みで音を上げないでイエス様に習いましょう。人々が世に希望を持たないときにも、私たちには生き甲斐があります。

最後に、神の言葉を語る指導者のことを思い出さない、とヘブライ人への手紙13章7節にあります。聖霊は責任をもって、これら神様の約束の言葉を通して、み言葉を聞く私たちの内に主の恵に信頼する信仰を造り、強めてくださいます。私たちにどうしても必要な福音の説教が常になされるために、神様は説教の職務を設定してくださいました。そして、神のみ言葉を語る指導者をその職務に召してくださり、教会に与えてくださいます。そして、人々の信任を受けて使命を果たすように助けてくださいます。ここで言われている指導者とは、私たちの教会で私たちを強める恵みの御言葉を語り、私たちと家族の霊的な健康をいつも責任をもって祈り、間違った教えから会衆を守り、自らの生涯をかけてあなたがたの魂のために心を配る牧者です。指導者のために祈り、支えて、恵みによって私たちの心を強める働きを喜んで全うしていただくことができるように、特に覚える一年としましょう。

「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」ヘブライ 13章 8節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 411 番 献金 献金感謝の祈り

1. すべしらす神よ、ときわに導く み手のおおみわざ、我ら ほめたたう
2. **新しき年は 主の愛をしめす、恵みは たえせじ 年の終わるまで**
3. 家にも 旅にも 夜昼 わかたず、み恵みを受けて この年を過ごさん
4. **我らの行く先、定かに見えねど、導く光に 身を委(ゆだ)ねまつらん**
5. 禍幸(まがさち)よしあし 行き交う中にも、我らの喜び 安(やす)きは主にあり **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一年も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏